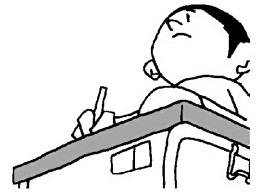
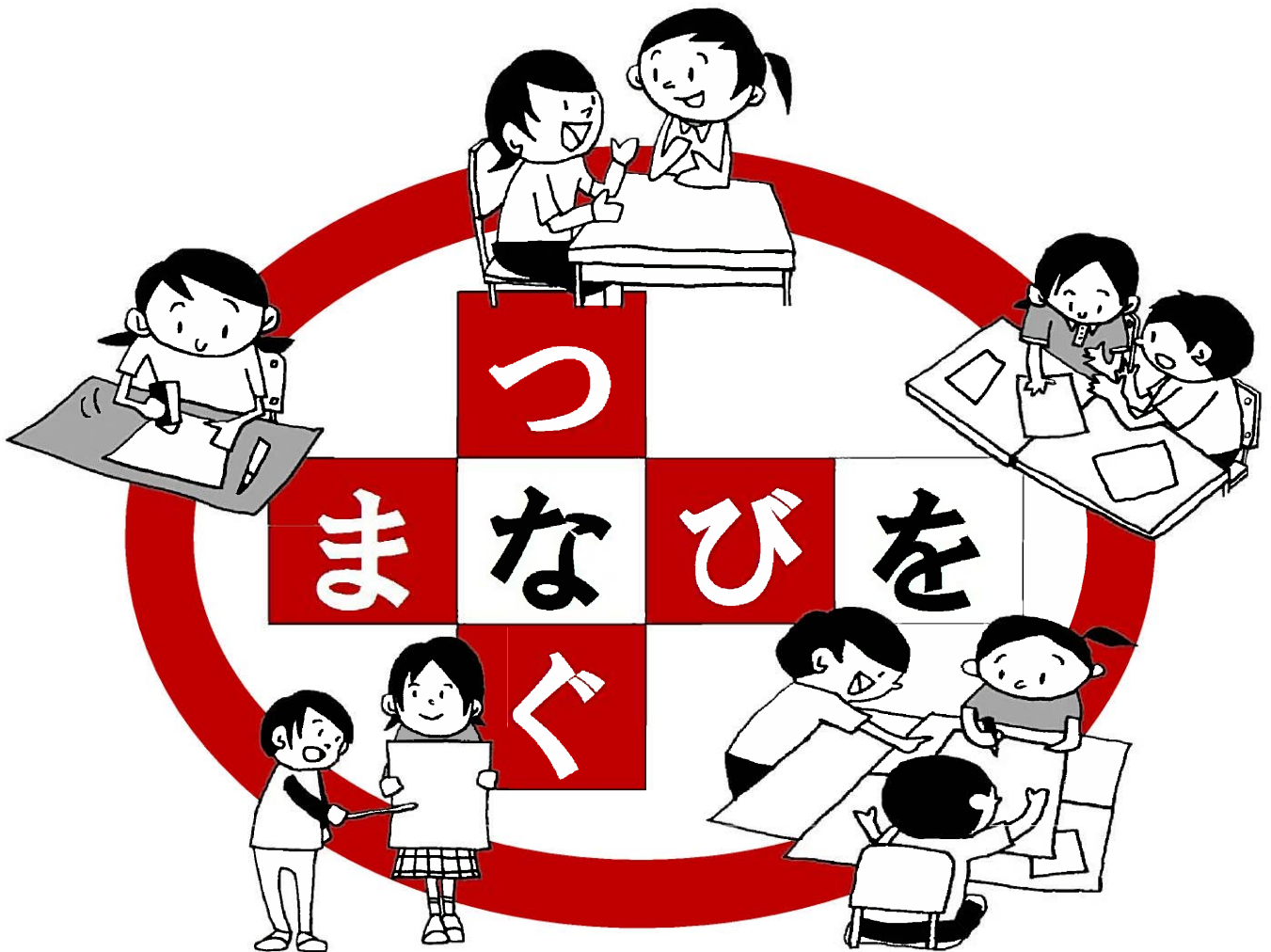


# 地理歴史科(歴史総合・世界史)授業

大分県立佐伯鶴城高等学校 甲斐亮介



巧遅より拙速!



## 探究する学習へ(小学校社会科より)

（小学校使用教科書）

The image shows a student's handwritten work on a map of Australia. The map is annotated with various labels and notes in Japanese. A large green circular arrow diagram is overlaid on the work, representing a learning cycle. The cycle consists of five steps: 1. ぎもんをもつ (Formulating questions), 2. 新しいぎもん (New questions), 3. わかる (Understanding), 4. 調べる (Investigating), and 5. 予想をたてる (Formulating hypotheses). The student's work includes a title '今回はオーストラリアについて調べてみます' (This time we will investigate Australia) and various notes such as 'クワインズランド', 'エアーズロック', '直線間の鉄道', 'オーストラリアの真夏には...', and 'オーストラリアの鉄...'. A small inset image shows a page from a primary school textbook with similar content.

ぎもんをもつ

新しいぎもん

問題をつかむ

わかる

予想をたてる

調べる

## 探究する学習へ(高等学校地歴・公民科より)

The image shows a student's handwritten work on a map of Africa. The map is annotated with various labels and notes in Japanese. A large green circular arrow diagram is overlaid on the work, representing a learning cycle. The cycle consists of five steps: 1. ぎもんをもつ (Formulating questions), 2. 新しいぎもん (New questions), 3. わかる (Understanding), 4. 調べる (Investigating), and 5. 予想をたてる (Formulating hypotheses). The student's work includes a title 'アフリカ' (Africa) and various notes such as 'エリトリア', 'エチオピア', '1900-1940年間の...', and '1940-1980年間の...'. The work is presented as a collage of pages, with some pages showing detailed notes and others showing maps.

ぎもんをもつ

新しいぎもん

問題をつかむ

わかる

予想をたてる

調べる

## 佐伯鶴城高校 学習指導略案

実施教科/ 科目	地理歴史・公民科(歴史総合)	授業者名	甲斐 亮介
実施日時	月 日 曜日 ( 限)	場 所	教室
対象クラス	普通科 年 組 系 ( 名)		

※体育や芸術の解体授業は、(例) 1年1・2・3組と記入。※習熟度別授業での対象クラス欄は、(例) 2年3・4組習熟・応用と記入。

授業者のねらい ※佐伯鶴城の ミッション	①テーマや目標、課題設定等から、教科書等のデータ処理や分析・考察、結果の伝達や課題の再設定等を行うことを通して、自ら探究していく力を育成したい。 (探究型授業の構築) ②ペアでの活動等を通して、自らの考えを他者に的確に伝える力、協働・協調性、リーダーシップを育成したい。 (地域人材の育成)	
----------------------------	--	--

※授業後の生徒の姿を簡条書きで記載する。

授業の内容・テーマ	※基本、教科書の項目に沿ってテーマを設定。
-----------	-----------------------

※小単元等を記載する。

授業の目標	※毎時間、本時のゴールすべきこととして、黒板に提示。
-------	----------------------------

※授業中に生徒と共有する目標及び手立て等を記載する。

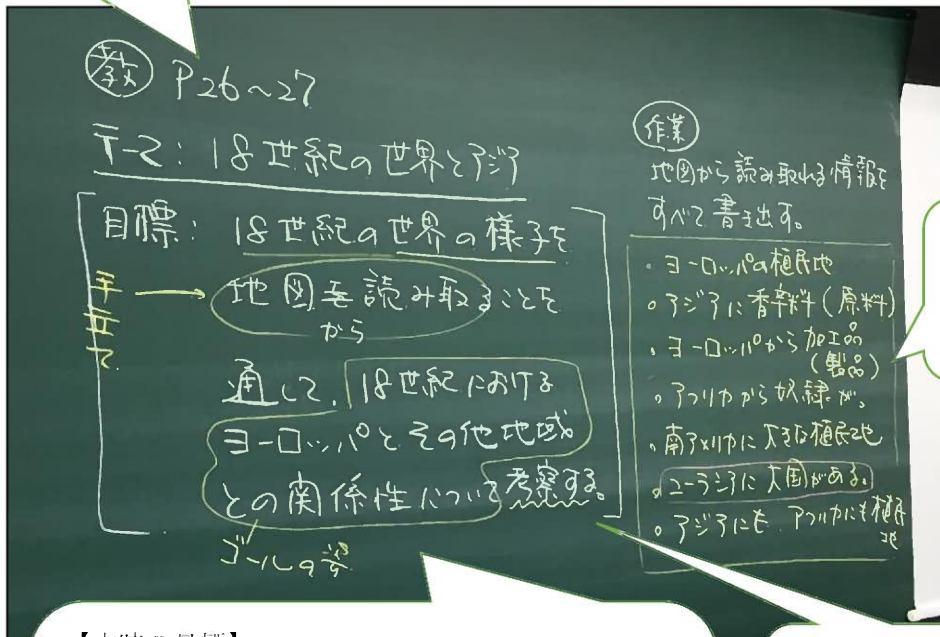
授業場面	指導内容 (教師)	学習 (生徒の動き)	目安時間	経過時間
導入 (シーン1)	①テーマの提示 ②目標の提示 ③本時の概略説明 ※ソロ活動	「授業用学習プリント」へ記入 ①プリント受取 ②板書を入力 (日付・範囲・テーマ・目標)	10分	10分
展開1 (シーン2)	ミッション①の提示 ※ソロ or ペア活動	ミッションへの挑戦 ①「教科書」から「キーワード」探し ②教科書にライン入れ ※既存の知識の掘り起こし。	10分	20分
展開2 (シーン3)	全体で共有	進捗状況の確認や発表等 ①他の意見を取り入れる	5分	25分
展開3 (シーン4)	ミッション②・「問い」の提示 ※ソロ or ペア活動 ※ミッション③の提示	提示された「ミッション」、「問い」に基づいて、授業目標の達成を狙う。	10分	35分
展開4 (シーン5)	全体で共有	進捗状況の確認や発表等 ※他の意見を取り入れる	5分	40分
振り返り (シーン6)	振り返り ※ソロ活動	「授業用学習プリント」の完成	10分	50分

☆『MataMoji Classroom』を使用

※展開1 (シーン1) は、「思考ツール」等を活用し、比較や分類を行う。

【板書の構成とそれぞれの狙い】

該当する教科書ページ&本時のテーマ



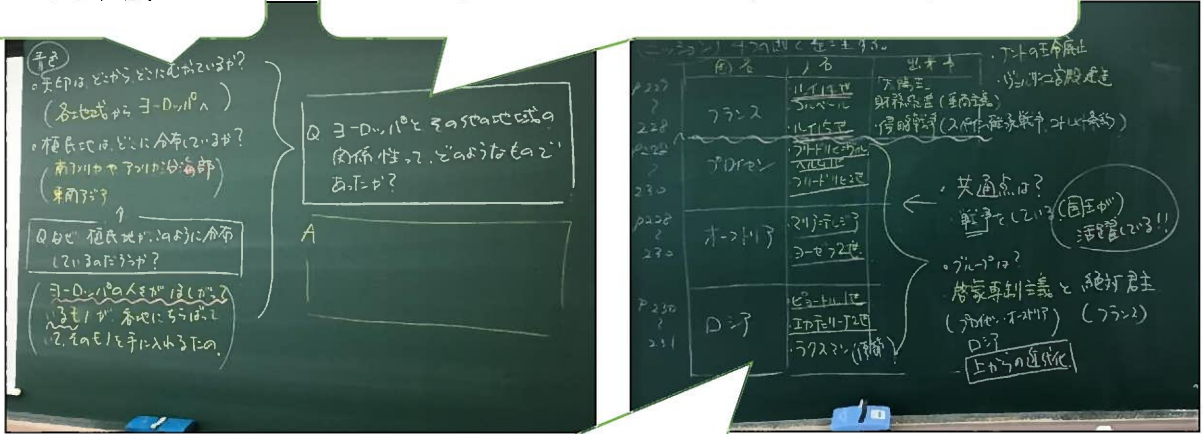
目標に示した「手立て」に  
 合わせて、ミッションを設定。  
 毎時間2~3つ程度。

【本時の目標】  
 ①手立てと②ゴールを合わせて提示して、生徒に  
 本時の見通し(『学びの地図』)を持たせることを  
 目的。  
 (例)  
 18世紀の世界の様子を①地図から読み取ることを  
 通して、②18世紀におけるヨーロッパとその他の  
 地域との関係性について考察する。

【テーマの概略】  
 生徒に全体像を掴ま  
 せるが目的。  
 いつ・誰・どこ等。

ミッションを全体で  
 共有するための板書。

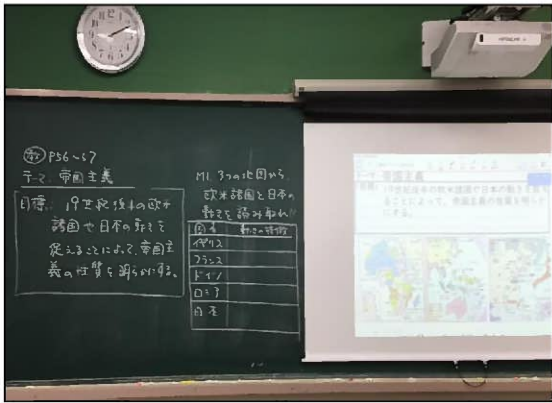
本時のメインエピソードに当たるもの。本時の学習を、  
 個人で振り返りながら考えさせ、文章等でまとめさせる。



【視覚効果】  
 地図・表等を示すことで視覚的に思考をうながす。

【授業の様子】

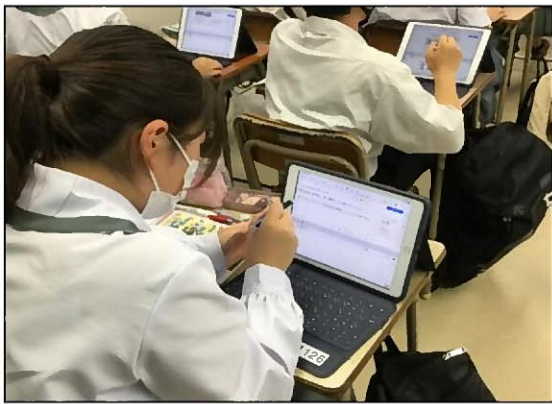
導入(シーン1)&展開1(シーン2)



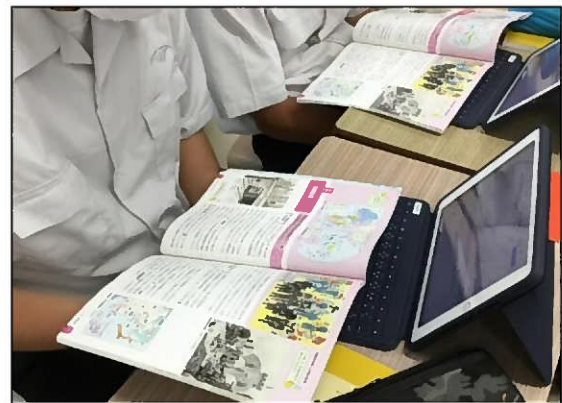
展開1(シーン2)



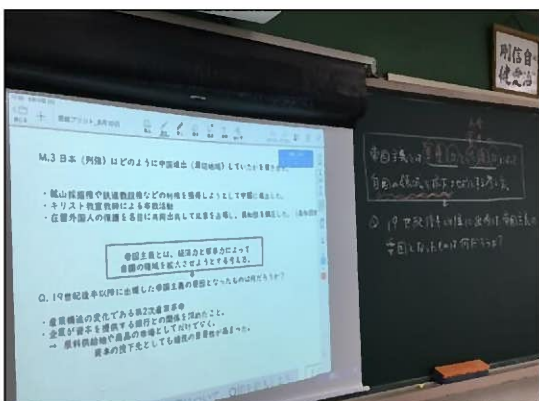
展開3(シーン3) ソロ



展開3(シーン3) ペア



展開2(シーン3)&展開4(シーン5)



振り返り(シーン6)



【授業用学習プリントの様子】

※『MataMoJi ClassRoom』を使用前

歴史総合 学習プリント 1年 6月2日 水曜日 教科書 P54～P55

テーマ: 日本の産業革命

【目標】 日本の産業革命について、明治期の貿易等を整理・分析することで、日本における産業革命の進展について捉える。

M1: 明治期の貿易の輸出入品目について整理せよ。

年	1885年	1899年
輸出	1 生糸 2 茶 3 水産物 4 石炭	1 生糸 2 綿糸 3 絹織物 4 石炭
輸入	1 綿糸 2 砂糖 3 絹織物 4 毛織物	1 綿花 2 砂糖 3 機械類 4 鉄類

【アンケート】 今回の授業について、〇印を記入しよう。

①授業の展開から、新たな知識、知識・技能を獲得できた。( )

②授業の展開や問いについて、真剣に思考・判断することができた。( )

③授業の問いについて、的確にまとめ、表現することができた。( )

④振り返り ①この時間の中で、「考えた疑問」や「気づいた事柄」について書きましょう。

※『MataMoJi ClassRoom』を使用

歴史総合 学習プリント 1年 6月2日 水曜日 教科書 P54～P55

テーマ: 日本の産業革命

【目標】 日本の産業革命について、明治期の貿易等を整理・分析することで、日本における産業革命の進展について捉える。

M1: 明治期の貿易の輸出入品目について整理せよ。

年	1885年	1899年
輸出	1 生糸 2 茶 3 水産物 4 石炭	1 生糸 2 綿糸 3 絹織物 4 石炭
輸入	1 綿糸 2 砂糖 3 絹織物 4 毛織物	1 綿花 2 砂糖 3 機械類 4 鉄類

M2: 日本の産業革命がどのように進展していったのかについて書き表せ!

1885 機械による紡績業・製糸業 → 軽工業

1899 八幡製鉄所の設立 → 重工業の発達

M3: M2の根拠

大正紡績会社の開業・八幡製鉄所の設立

【アンケート】 今回の授業について、〇印を記入しよう。

①授業の展開から、新たな知識、知識・技能を獲得できた。( )

②授業の展開や問いについて、真剣に思考・判断することができた。( )

③授業の問いについて、的確にまとめ、表現することができた。( )

④振り返り ①この時間の中で、「考えた疑問」や「気づいた事柄」について書きましょう。

もし日清戦争で負けていたら逆に日本が多額の賠償金を支払うことになるので、産業革命は達成されていなかったかもしれない。遅れて産業革命を達成した日本を欧米諸国はどう思っていたのだろうか

【振り返りの変化】

期間	項目	平均	4の出現率	割合	4の人数	回答数	質問項目内容
4月～5月	①	3.8	81.7	95.2	31.4	38.7	①[授業の目標]に対して、自分なりに意識して(主体的に)取り組めた。
	②	3.8	80.7	94.9			②授業中の[先生の問い]について、真剣に思考・判断することができた。
5月～6月	①	3.7	70.9	92.4	25.8	39.8	①[授業の展開]から、新たな観点、知識・技能を獲得できた。
	②	3.6	70.2	88.8			②[授業の展開や問い]について、真剣に思考・判断することができた。
	③	3.5	52.6	86.3			③[授業の問い]について、的確にまとめ、表現することができた。
6月～	①	3.8	79.1	94.6	25.0	34.8	※質問項目内容に変更なし。 ☆『MataMoJi Classroom』を使用
	②	3.8	78.6	94.4			
	③	3.7	68.7	91.6			

- ・評価項目を変更することで、各項目の数値に変動が生じたことがわかる。
- ・プリントを使用していた時は、特に③の数値が厳しく出ていることがわかる。
- ・タブレットを活用後は、各項目とも数値が上昇していることがわかる。
- ・③については、0.2ポイント上昇していることがわかる。

【校内授業アンケートの結果】

質問項目	1	2	3	4	5
1 あなたはこの授業に主体的に取り組むことができますか。	58%	40%	2%	0%	
2 あなたはこの授業の予習・復習について、効率的・積極的に取り組むことができますか。	19%	53%	26%	2%	
3 あなたはこの授業に関連する授業時間外の学習(予習・復習・課題等)に週平均(平日)でどの程度の時間を費やしていますか。	17%	63%	1%	19%	
4 この授業は学習の流れや重点がわかる授業になっていますか。	33%	49%	13%	4%	
5 この授業は生徒が質問や発言しやすい雰囲気ですか。	25%	53%	16%	6%	
6 この授業は生徒同士・生徒と教員の対話が重視されていると感じていますか。	36%	46%	14%	4%	
7 この授業は生徒が協働して課題を解決する場面(ペアワークやグループワークなど)がありますか。	70%	24%	5%	1%	
8 この授業では先生の発問により思考が深まると感じていますか。	50%	38%	9%	3%	
9 この授業では学んだ知識を活用する場面がありますか。	33%	41%	21%	5%	
10 この授業から知的な刺激を受けて、その分野や関連分野のこともっと知りたいと思いましたか。	25%	43%	23%	10%	
11 あなたはこの授業で学んだ過程など振り返る場面がありますか。	26%	47%	24%	3%	
12 この授業はICT機器を活用する場面がありますか。	93%	4%	2%	1%	
13 あなたはこの授業や課題で、知識やスキルを身につける等、成長を実感することができますか。	31%	53%	15%	2%	
14 あなたはこの授業への取り組みにより、思考力・判断力・表現力が向上していると思いますか。	40%	50%	8%	2%	
15 この授業の理解度をパーセントで表すとどのくらいですか。	14%	46%	35%	4%	1%
16 あなたにとって先生の授業の難易度はどう感じていますか。	13%	72%	15%	0%	
17 この授業に対するあなたの満足度を5点満点で評価してください。	15%	43%	31%	10%	1%
18 その他(授業に関して、何か意見や感想があれば記入して下さい)					

1	2	3	4	5
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
1～2時間	3時間未満	2～3時間	全くしていない	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	
100～90%	80～60%	40～20%	20%以下	
大変適切	適切	難しすぎて理解できない		
5点(満足)	4点(満足)	3点	2点(やや不満)	1点(不満)

この授業では先生の発問により思考が深まると感じていますか。

この授業から知的な刺激を受けて、その分野や関連分野のこともっと知りたいと思いましたか。

あなたはこの授業への取り組みにより、思考力・判断力・表現力が向上していると思いますか。

※表中の赤色は、50%以上の所。

※各項目への肯定的回答を、1(はい)・2(どちらかといえば、はい)と設定。

- ・「授業のねらい」からすると、「この授業から知的な刺激を受けて、その分野や関連分野のこともっと知りたいと思いましたか。」の項目は、肯定的回答は68%とまだまだ改善の余地がある。
- ・「この授業では先生の発問により思考が深まると感じていますか。」の項目は88%の肯定的回答があり、「あなたはこの授業への取り組みにより、思考力・判断力・表現力が向上していると思いますか。」の項目は90%の肯定的回答が見られることから、授業における生徒たちの『思考への働きかけ』は上手くできていることがわかる。

